

全国学力・学習状況調査からみる本校6学年児童の傾向と改善の方向について

本年4月19日に6学年を対象に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を受けて、本校の傾向と改善の方向についてお知らせします。

この調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の結果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことにあります。公表にあたっては、「調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえた」上で、調査結果の分析に基づいた本校の傾向を示し、日々の教育活動や今後の具体的な取組について検討して改善に役立てたいと考えています。

1【国語】

正答数の分布を見ると、【国語A】主として知識に関わる問題、【国語B】主として活用にかかわる問題ともに上位層が多い傾向が見られます。領域別で見ると以下ようになります。

(1)【話すこと・聞くこと】

(B)「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」についての正答率は、60.0%でした。全国平均を上回っていますが、今後も、自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを観点として、相手の話を注意深く聞くことができるようにする指導を大切にしていきます。

(2)【書くこと】

(A)「ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する」(正答率 82.5%)、(B)「目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書く」(正答率 85.0%)、(B)「活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える」(正答率 70.0%)と相当数の児童ができており、全国平均を上回りました。しかし、(B)「グラフの結果を基に、分かったことを的確に書く」(正答率 30.0%)は正答率が低く全国平均を下回り、課題となる結果でした。社会科や算数科等で学習した図表やグラフの読み方を確認し、読み取ったことを的確に表現することができるようにする指導を大切にしていきたいと思います。

(3)【読むこと】

(B)「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」(正答率 90.0%)「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する」(正答率 95.0%)と、全国平均を上回っています。文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などについて注意して読む学習が充実しています。全体として「読むこと」については確実な学習ができています。児童質問紙調査から、平日1日に30分以上読書をする児童が60.0%と、全国平均を上回り読書好きな子が多く、本の貸し出し数、図書館の利用度も高く、読書経験がよい影響を与えていると考えます。

(4)【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

(A)「漢字の読み書き」「ローマ字の読み書き」については、どの問題も全国平均を上回り、無解答率も概ね全国平均を下回る結果となっています。(A)「用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める」(正答率 92.5%)は全国平均を上回っています。今後も点画の書き方や筆圧などに注意して書くことができるように指導を充実させたいと思います。

2【算数】

(1)【算数A】について 主として知識にかかわる問題

正答数の分布を見ると、上位層が多い傾向が見られます。領域別で見るとどの領域も良好です。

◇評価の観点別に見ると、計算などの技能の正答率は、全国平均を若干上回る程度ですが、「 $\square \div 0.8$ の商の大きさについて正しいものを選ぶ」(正答率90.0%)、「 8 m^2 に14人座っているシートについて、 1 m^2 当たりの人数を求める式を書く」(正答率85.0%)、「定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図で表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く」(正答率77.5%)など知識・理解の正答率が全国平均を上回っています。今後も、答えを求めるだけでなく、答えに至る過程も大事にして理解を深めながら学習を進めてまいります。

(2)【算数B】について 主として活用にかかわる問題

正答数の分布を見ると、上位層が多い傾向が見られます。評価の観点別に見ると、「数量や図形についての技能」「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」のいずれも全国平均を上回っています。

◇「四角形の面積が 4 cm^2 小さくなることの説明を書く」(正答率67.5%)、「長方形の厚紙から1辺9cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く」(正答率55.0%)等、記述式の正答率が、全校平均を上回っています。情報整理と条件をもとに筋道を立てて考える力が伸びています。

◆「目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く」問題の正答率は17.5%、「示された形をつくることのできることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く」問題の正答率は10.0%でした。全国平均も同様の傾向ですが、図と式を関連付け、式の意味を解釈し合ったり、図形の構成要素に着目して図形を論理的に考察し、考察の結果を説明し合ったりする学習を充実することが大切であると考えています。

3【児童質問紙からの傾向】について

長野市教育委員会「しなのきプラン29」の観点を基にすると

【未来力】「将来の夢や目標を持っている」「国語や算数の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ」と答えた児童の割合は全国平均をやや上回っています。

【自律力】「学校のきまりを守っている」「毎日同じくらいの時刻におきている」と答えた児童の割合は全国平均をやや上回っています。

【絆力】「学級みんなで協力し何かをやり遂げうれしかったことがある」「話し合い活動で少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめる」の割合は全国平均を上回っています。

【実践力】「児童の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを高めたり、広げたりすることができる」と答えた児童の割合は、全国平均を上回っています。

その他、地域の行事に参加している児童の割合が全国平均を上回っています。また、家で、学校の授業の予習や復習をしている児童の割合が全国平均を上回っています。家での自学自習において、教科書を使いながら学習する割合は100%となっています。

本校の児童は家庭や地域の教育力に支えられて健全に育っていると感じています。さらに、家庭での過ごし方の振り返りや「家庭学習の手引き」を活用しながら、家庭学習の充実を図っていきたいと思います。一人ひとりの生活や学習の仕方を見直して改善していくことが、学力の向上とともに健全な育ちにつながっていきます。学校でも、授業がもっとよくなる3観点「ねらい」「めりはり」「見とどけ」を心がけ、授業改善を図っていきます。今後も、一層学校と家庭・地域との連携を取り合っていきたいと考えています。

以上のように、この調査から見える成果や課題をしっかりと受け止め、指導・支援の充実を図り、確かな学力の向上に努めてまいります。また、ご家庭においても、生活習慣や学習環境、家庭学習のあり方等について更なる改善に向けて、ご理解とご協力をお願いいたします。